



アッパー・カナダ・ヴィレッジにようこそ

1866年のアッパーカナダに時代を遡ってみましょう。このヴィレッジでは、歴史的な農場、水車や水流による工場、職工、専門職、家具付きの家々、ガーデン、娯楽など、川岸の小さな集落の日常生活や仕事の様子を見学・体験することができます。

アッパーカナダとロウワーカナダは、19世紀の英領北アメリカ植民地でした。「アッパーカナダ」は、現在のオンタリオ州の一部、セントローレンス川の「上流（アッパー）」に位置していました。

1954年から1958年、「セントローレンス海路と発電計画」により、セントローレンス川は、水深の深い商業輸送用の運河へとその姿を変えました。コーンウォール（Cornwall）近郊に建設された水力発電ダムによって水位が上昇したため、本来の川岸沿いにあった8つの村々は退去させられました。今日、見学可能な歴史的な建物と住宅の多くは保存され、このアッパー・カナダ・ヴィレッジに移築されましたが、水没した地域から19世紀の代表的な村落の全要素を見つけ出すことは不可能だったため、いくつかの建物はオンタリオ東部の別の場所から移築されたり、その場に再建されたりしました。カナダで最も古く、最も包括的で、歴史がそのままに残る博物館の一つ、アッパー・カナダ・ヴィレッジは、1961年に正式に開館されました。

お客様の安全のため、次の指針をお守りください。

- アッパー・カナダ・ヴィレッジは禁煙です。
- 建物内でのご飲食は禁止されています。
- 盲導犬またはその他の介助動物の同伴を歓迎します。その他すべてのペットは、必ず紐につないでください。建物内やディスカヴァリー・センターの展示エリアへのペットの立ち入りはできません。
- 花、農作物、果物を摘み取らないでください。
- 壁、樹木、塀には登らないでください。
- 家畜や動物の周囲ではご注意ください。動物に餌を与えないでください。
- ベビーカーやワゴンは、家具が設置されている住宅の外に置いてください。

1-800-437-2233 または uppercanadavillage.com

ディスカヴァリー・センター

セントローレンス川沿いの人々の暮らしの様子や米英戦争（1812年）中に勃発したクライスラー農園の戦いの国家的な意義を対話形式でわかりやすく学ぶことができます。

毛織物工場

毛織物工場は、印象的な1860年代の機械を使用し原毛を毛糸や布のブランケットに仕上げます。紡績機や織機を導入したこの工場は、新しい機械工場システムの始まりを象徴しています。

製粉機

水力や水流を使い大幅に自動化された製粉工場では、大型の碾き臼で粉を挽きます。小麦粉は近郊の桶屋で作られた木製の樽で輸送されました。

製材所

製材所では水力による長刃のこぎりで地元の顧客のために木材を切断します。住まいに関して木材に大きく依存していた地域社会にとって、製材所はどこにでもある、欠かせない存在でした。

ほうき屋

ほうき職人は輸入されたホウキモロコシ（モロコシ）を使い、地元で販売する商品を作ります。きびホウキは人気の商品で、枝、辺材、トウモロコシの皮から作られたほうきよりも優れていると考えられていました。

消防車庫

この建物は、村所有の手押しポンプの消防車「クイーン（Queen）」が保存されています。村落の消火機器の調達は主に工場火災の対策として、工場の所有者たちが中心となって行いました。

クックの居酒屋

居酒屋は、宿泊施設、食事、飲み物を提供しました。また、貸し馬業として馬や馬車も用意していました。上階の広間は、地元の会合や夜の催し物に使用されました。

クライスト・チャーチ

風格のある白い教会クライストチャーチは、アッパーカナダの主なプロテスタント教派の一つであった英国国教会の信徒たちによる荘厳な正式典礼と音楽の場所でした。

牧師の家

地元のルター派教徒が建てた牧師用の快適な家です。この地域の多数のドイツ系プロテスタントにとって、宗教的・道徳的な教えは重要でした。

マソニック・ホール

1860年代のコミュニティには、多くの場合、フリーメーソン会のような友愛団体がいくつか存在しました。彼らは、慈善活動や公的・私的な道德の奨励に身を捧げました。

靴屋

手工具や「ラスト」と呼ばれた木型を使い、靴職人が皮革ブーツや靴の製作・修理をします。

ブリキ職人

ブリキ職人は、家庭や農家で使用するブリキ製品を生産していました。光沢のある軽い安価のブリキ製品は、白目、木材、陶器製品に代わる人気の高い代用品でした。

ロバートソン家

ロバートソン家は、当時の典型的な裕福な中流家庭で、家の中の調度品や19世紀の建築様式から一目でロイヤリスト（英国王党派）を受け継いでいることがわかります。

クライスラー・ストア

このような商店は多種多様な商品とサービス（郵便業務など）を地域社会に提供していました。店主は、モントリオールの卸問屋から商品を買付け、時折、現金の代わりに地産品を受領することもありました。

パン屋

パン職人が製粉機で製粉された小麦粉を使い、大量のパン生地を練り上げた後、重さを測り、型に入れ薪釜で焼きます。当時は、ほとんどの家庭でパンを作っていたため、パン屋の主な客層は旅行者や出稼ぎ労働者でした。

Willard’s Hotel

当時の衣装を来たスタッフが迎えてくれるこのレストランでは、1860年代の典型的なお食事をお楽しみいただけます。

クライスラー・ホール

裕福な地主ジョン・クライスラー（John Crysler）の住宅であったこの建物は、現在、アッパー・カナダ・ヴィレッジの所蔵品の展示場として使用されています。

医師の家と納屋

医師は最新の科学と医学を取り入れ患者の治療を行いました。当時は多くの人々が科学的とはいえない治療法や助産師、ホメオパシー医に頼り続けていました。

仕立て屋

仕立て屋は、女性にロンドン、ニューヨーク、パリの最新ファッションを提供しました。

Kettle Corner

お飲み物やスナックをご購入いただける小さな売店です。

ロークス農場

「混合」農業を営んでいたロークス家の農場では、安定した革新的な農業経営による品種改良、馬力、そして初期の機械化による影響について実演します。食事は、冬用のキッチンまたは夏用のキッチンで薪ストーブを使って用意されます。

テナント農場

テナント農家は家や土地を借用した農家です。雄牛と人力の道具を使い、農作業を行っていました。平炉は料理だけでなく暖をとるためにも使われます。

曳き船埠頭

馬が曳く平底船に乗って埠頭間を移動することができます。1860年代には、この曳き船（トウ・スコウ）は、主にセントローレンス川やリドー運河のばら積み貨物の河川輸送に使用されていました。

信号塔

モールス信号や電信の前、米英戦争中は、このような信号塔を通じてポールやベナントによるシステムで国境沿いに海軍軍事コードを送信しました。塔の上に登ると美しいパノラマのような景色をご覧いただくことができます。

ファミリー・アクティビティ・センター

（7月と8月に開館）

1860年代の娯楽、人気のボードゲーム、工芸、衣装、屋外の余暇活動などをお試しいただけます。

チーズ工場

1860年代までのミルク生産の増加は、民間や協同組合によるチーズ工場の出現をもたらしました。カナダ産チェダーチーズが製造され、イギリスに輸出されました。

校舎

公立学校は学びたい人すべてが学べる場所でしたが、出席は強制ではありませんでした。学生たちは、読み書き計算だけでなく、礼儀作法や道德について厳しく教育されました。

印刷所

植字工、印刷工、校正者が、地元の話題、広告、文芸欄、農業に関するアドバイス、国際的なニュースなどを週刊の新聞として発行しました。ポスターの制作などその他の印刷業務は地域事業の維持に役立ちました。

Harvest Barn

この現代的なカフェテリアスタイルのレストランでは、暖かいお食事や冷たいお食事、お飲み物をお楽しみいただけます。

マクダイアミッド家

この家では織工が糸を紡ぎ、織機で布地やその他の織物を作ります。こういった製品は多数の家族にとって重要な収入源でした。

ロス農場

庭では馬力を利用した引きノコで薪を切る作業、そして家の中ではキルト制作などの家事に従事していました。薪の束は、グランク・トランク鉄道（Grand Trunk Railway）、蒸気船、地元の住民、近郊の工場に売られました。

家具屋

家具職人が、お客様の特注家具やその他の商品を製造します。機械化された大型家具工場の登場によって苦境に立たされた家具職人は、商売を継続するため、修理や大量生産品の組立ても行いました。

プロヴィデンス礼拝堂

メソジスト監督協会の会合場所であったこの礼拝堂は、日曜学校の授業、チャリティーコンサート、禁酒会議などに使用されました。メソジスト派は、1860年代には最も多いプロテスタント教徒でした。all

鍛冶屋

鍛冶屋は、隣人や地域産業のために、馬の蹄鉄打ち、荷馬車の修理、機械の修繕をします。鍛冶屋は地域社会の発展には欠かせない重要な存在でした。